

第 104 回番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 30 年 10 月 30 日（火）
- 2 開催場所 割烹さわ
- 3 出席について
 - 委員総数 14 人
 - 出席委員数 6 人
 - 出席委員の氏名
 - 竹中 隆 / 熊野卓司 / 高井俊一郎
 - 吉井照雄 / 渡木秀徳 / 吉村巳之
 - ラジオ高崎 3 人
 - 編成局長 田野内明美
 - 放送部長 吉良武夫
 - 企画課長 関口高史
- 4 議題 ラジオ高崎の番組内容について
 - 「高崎市場だより」「Smile 防災情報」について
 - 平成 30 年度番組全般について
- 5 議事の概要（別紙）
- 6 審議機関の答申、また改善意見に対してとった措置及びその年月日
- 7 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日
 - ・書面 ラジオ高崎に備え置き
 - ・ホームページ ラジオ高崎ホームページ内

<http://www.takasaki.fm>
- 8 その他の参考事項

(別紙) 議事の概要

(田野内編成局から特別番組の紹介)

- Premium Talk 平野レミ** : 5/31(土)13:00~13:30 (収録)
料理愛好家・平野レミさんが、「高崎の食」をテーマに高崎産食材の特徴やおいしさを明るいテンションで紹介した。
- CAFÉ 高崎じまんオープン記念特番 JIMAN RADIO** : 7/21(土)13:00~14:29 (生放送)
タレントで高崎観光特使のJOYとともに高崎ホム 1階「高崎じまん」と7階「CAFÉ 高崎じまん」を紹介し、高崎の味じまんを探った。
- 高崎まつり特番** : 8/4(土) 5(日) (生放送)
高崎スズラン前のたぶの木広場に特設ブースを設置し、高崎まつりの見どころを伝えた。
- Premium Talk 浦沢直樹** : 8/11(土) (収録)
ラジオ高崎初出演の漫画家・浦沢直樹にさまざまな角度から迫ったトーク番組。
- 映画高崎グラフィティ監督&メインキャスト出演 公開生放送** : 8/18(土) (生放送)
全編高崎で撮影された映画「高崎グラフィティ。」の監督とメインキャストの皆さんが高崎ホム 8階の特設ブースに出演し、本映画の魅力をたっぷり語った。
- 群馬ダイヤモンドペガサス日本一特番** : 10/27(土)他 (収録)
2年ぶり2度目の野球独立リーグ日本一に輝いた群馬ダイヤモンドペガサス紹介特番。
- ソフトボール国際大会 JAPAN CUP in 高崎 直前特番** : 11/1(木)他 (収録)
女子日本代表を率いる宇津木麗華ヘッドコーチをゲストに迎え、大会にかける意気込みやチーム作り、更にはオリンピックについても伺った。

上記説明のあと、「高崎市場だより※1」「Smile 防災情報※2」などのワイド番組内コーナーを含めた既存番組について広く意見を求めた。

※1「高崎市場だより」…高崎市総合卸売市場の旬な情報を紹介 (水 14:00、金 12:45)

※2「Smile 防災情報」…防災士の赤羽潤子さんの防災情報 (第1・3火 14:00)

委員各位の意見

- Smile 防災情報は、水害に対するタイムラインというタイムリーな内容で、しかも要領よく話していて分かりやすかった。このコーナーだけではないが、役に立つ情報をどの時間帯に流すかが重要。再放送をしたり、HP など他のツールでも聞けるようにしたりすることも検討すべきだ。
- エンターテインメント放送はよくできている。放送でイベント情報等を紹介しているが、HP で高崎の行政・観光・イベント・スポーツ情報等が一括して分かる仕組みを創出して欲しい。
- 多くのタレントが出演しているが、地域情報の紹介にもより力を入れるべき。ラジオ高崎は、高崎市民へ身近な情報を提供する「聞くチラシ」のような役割を担っている。市民と接点を持ち、市民からの情報を紹介することも重要である。また、例えば「猫を特集した番組」のような話題性があるってラジオ高崎の PR になるような番組があってもよい。知恵をしぼった番組作りが求められている。
- Smile 防災情報は具体的な災害対応の内容で非常によいが、土砂災害等は山岳部や山沿いで起こりやすく、そういった地域の住民にもしっかりとラジオの音声が届くような仕組みを考えてみてはどうか。行政・災害・イベント情報は何度も再放送をして欲しい。
- 「高崎市場だより」は、身近な市場の旬情報が放送されていて聞くと市場に行きたくなる。そこで、高崎市場の HP（スマートフォン用）をチェックすると一般市民に向けた情報が非常に分かりにくかった。放送内容がよいだけに、PR にも工夫が必要。ラジオ高崎の HP と連動してみてはどうか。
- ラジオ放送と WEB 媒体などのメディアミックスを意識した情報発信をすべきだ。コミュニティ FM 放送は地域密着が重要。例えば、九州のある地方では地域密着の WebTV があり地元のお年寄りが方言でレポーターを務めて視聴者からは支持されているとのこと。ラジオ高崎も、こうした取り組みに挑戦してもよいのでは。
- ラジオ番組にゲストとして出られる窓口があるとよい。急なオファーでもゲスト出演を受け入れてくれるフットワークの軽さも、ラジオ高崎の魅力のひとつである。更には、出演することがステイタスであり続けるような放送局を目指して欲しい。

事務局より

- 行政情報・災害関係情報・イベント情報を繰り返し紹介する仕組みは、ラジオの再放送回数増加やHPでの発信も含めて検討したい。
- 今後、独自メディアのインターネット高崎新聞のニュースや話題を、ラジオ放送とともに高崎駅西口のOPAビジョンでの文字と写真を組み合わせた映像でも同時に紹介する取り組みを行う。現在、試作中である。

委員より

- テレビでも「視聴者からの映像」の紹介があるが、OPAビジョンに市民から提供してもらった映像を出す方法もある。もちろん、提供してもらった映像をチェックして紹介できるか否かを判断する必要があるが、やってみてもよいと思う。

以上